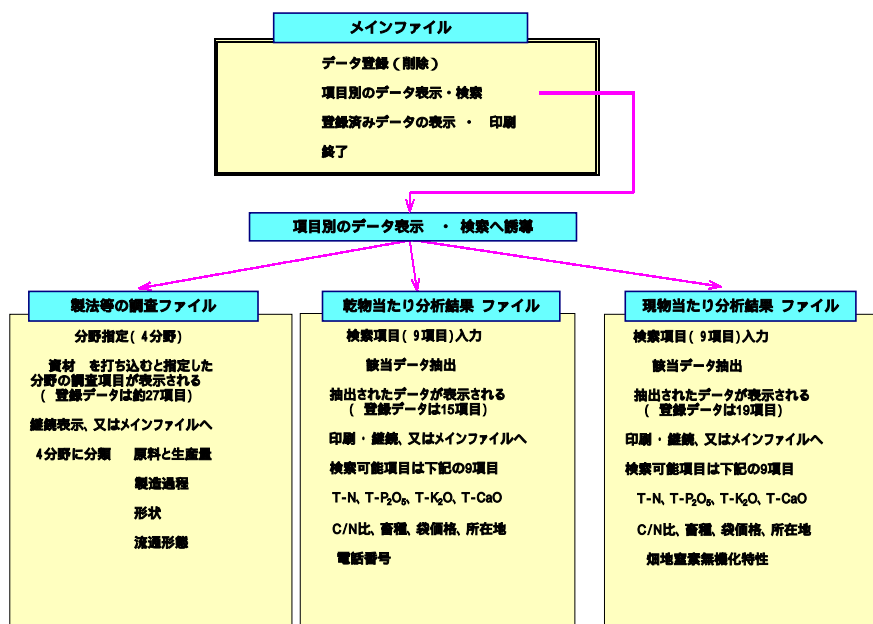


県内に流通する畜産由来肥料の実態

県内に流通する畜産由来肥料の特性を、畜産由来肥料データベースとしてとりまとめた。データベースには資材の養分含量の他、畑地での窒素無機化特性や資材の製法、流通に関する情報も登録してある。LOTUS 1-2-3 上での検索・表示・印刷が可能で、目的に応じた資材選択ができる。



データベースはLOTUS 1-2-3で読み込んで使用する。2つの分析結果ファイル上で、畜産由来肥料の検索を行う。(図1)。また、資材データを一覧表にした冊子も作成した。

図1 畜産由来肥料データベースの構成

表1 畑地での窒素無機化特性判定基準

無機化特性	畑地窒素無機化率* (およそのC/N比)	施用法
A	60%以上 (10以下)	化学肥料窒素代替可能
B	20~60% (10~20)	一部化学肥料窒素代替可能
C	20%未満 (20以上)	土壌改良材的

注) 最大容水量の50~60%の水分状態で管理しながら、30で60~80日間培養し、集積した硝酸態窒素のT-Nに対する割合を算出。

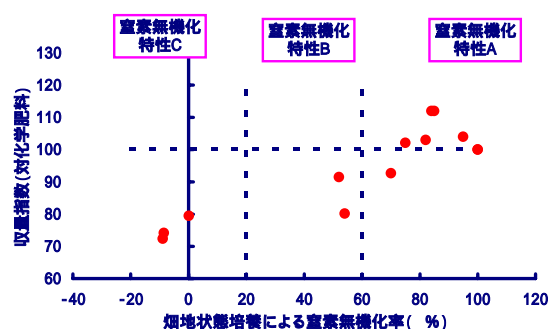


図2 畑地窒素無機化率と収量指数比較

注) 平成7、8年旧農試東北分場場内試験(ストロン)及び、平成3~7年旧農試環境部試験(雨除けほうれんそう)

資材の畑地状態での培養試験から、登録した資材の無機化特性値をA、B、Cの3段階で示した。これにより、化学肥料代替が可能な資材か、土壌改良材的な資材かが判断でき、資材の施用方法の参考とすることができる(表1、図2)。